

## 令和7年度第9回 感染症発生動向調査協議会

### 議事概要

1 日 時 令和7年12月17日（水） 14：00～

2 場 所 岐阜大学医学部本館 1階 入札室（岐阜市柳戸1-1）

3 出席者

委 員：馬場 尚志（岐阜大学医学部附属病院 生体支援センター センター長）  
川本 典生（岐阜大学大学院医学系研究科 小児科学 臨床教授）  
澤田 明（岐阜大学医学部附属病院 眼科 臨床准教授）  
加藤 達雄（国立病院機構長良医療センター 院長）  
高橋 義人（岐阜県総合医療センター 中央検査部部長 兼 臨床検査科部長）  
オブザーバー：市原 拓（岐阜市保健所 感染症・医務薬務課 感染症1係長）  
事務局：松尾 孝和（感染症対策推進課 感染症対策監）  
酢谷 奈津（感染症対策推進課 感染症対策係長）  
松岡 真史（感染症対策推進課 技術主査）  
野池 真奈美（保健環境研究所 主任専門研究員）  
吉田 菜穂（保健環境研究所 専門研究員）

4 議 題 （進行：加藤委員）

- （1）前月の感染症発生動向について
- （2）検討すべき課題について
- （3）情報提供すべき事項について
- （4）その他（感染症対策推進課から）

5 議事概要

#### 【前月の感染症発生動向について】

- ・事務局からの説明は資料のとおり。
- ・月番委員のコメントについては資料のとおり。
- ・（委員より）ARIについて、今年集計を開始して以来、初めて増加しています。ARIの報告数にインフルエンザ、新型コロナウイルス感染症が漏れている可能性があると思って懸念していましたが、どうでしょうか。
- ・（事務局より）保健所を通じて集計方法について注意喚起を行いました。医療機関によっては、一つの診療科の外来診療のデータからARIの集計を行う一方で、院内全体の検査実績からインフルエンザの集計を行うなど、必ずしも連動していないケースがあることも確認されています。
- ・（委員より）ARIサーベイランスの本来の目的は、未知の疾患が入り込んで患者が急増するような場合に備えるという話だったと思いますので、対象者や診療科を絞り込んでやるのがよいのか議論が必要だと思います。全国的にも同様の事態となっている可能性があるため、今後議論がされていくと思います。
- ・（委員より）国の動向も踏まえ、来シーズンに向けて協力医療機関に対して丁寧に説明や依頼をする

必要があると思います。

#### 【検討すべき課題について】

##### ○日本紅斑熱の発生状況について

- ・（委員より）日本紅斑熱の発生地域は、一定の地域に限られているのでしょうか。
- ・（事務局より）県内で採取したダニから病原体が検出され、同じ地域に立ち寄った方の発症が続いているという情報はあります。
- ・（委員より）地域に関する情報をいつ、どこまで公にするかについては、非常に難しい問題です。早く知りたい方がいる一方で、必要以上に怖がらせて風評被害になることを心配する方もいます。ダニの調査はどのように行われるのでしょうか。
- ・（事務局）保健環境研究所の調査研究として行っています。調査は年度をまたいで行われますが、いずれ結果をまとめて研究発表を行うことになります。
- ・（委員より）公表については難しい問題ですが、岐阜県内に日本紅斑熱の患者が発生していて、実際に身近な環境中のダニが病原体を保有していることは伝えていかないといけません。
- ・（委員より）先日は医師会共催の講演会でも、実際に診療を行った医療機関の医師が発表していました。診断や症状についても詳しく話しており、広く聞いていただきたい内容でした。
- ・（委員より）去年までとは違う状況であることが明らかになってきていますので、開業医や救急に関わる先生にも知ってほしいと思います。

##### ○インフルエンザの流行について

- ・（事務局より）今シーズン 49 週までのデータでは、岐阜県より全国のデータの方がやや早い形で推移していますが、既に減少に転じています。
- ・（委員より）毎年、感染者が特に多い週は 8 週間から 12 週間程度になることが多いです。そう考えると、今年は 45 週から感染報告数が増加していて、この後学校も休みに入りますので、年末にかけて減っていく可能性はあります。一方で、年末年始にかけて普段会わない親戚と会ったり、年が明けると新学期が始まったり成人式があったりとイベントが続きます。違うタイミングで B 型が増えたり、A 型でも別の種類が流行ったりしてくるかもしれません。

##### ○ホームページでの情報発信について

- ・（委員より）ホームページのアクセス数などは分かりますか。ダニ媒介感染症のかわら版なども作成していますが、注目されていればアクセスする方は増えると思います。
- ・（事務局より）確認します。
- ・（委員より）若い方にはInstagramの方がいいという話もありましたが、高齢の方にはHPや新聞の方が目にしてもらいやすいようです。インフルエンザ警報などはマスコミがいつも取り上げていて、それに関連して検索してみる方がいるかもしれませんが、その時点ですでに流行が始まっています。その手前で増加の兆候を捉えて発信できるといいと思います。